

2023 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

| 質問 | 回答 |
|--|--|
| <p>Q 1 : 23 年度 2Q の事業利益について、例年と比較して進捗が鈍い※ように見えますが、どのように評価していますか。</p> <p>※ PW1100G-JM エンジンに関する 580 億円の一括損失計上の影響を除く</p> | <p>A 1 : 事業によって強弱はあるものの、おおむね想定線と捉えています。 昨年度までは年度末に一括計上していた費用（一部の賞与引当金等）について、今年度からは各四半期で平準化して費用計上しているため、過年度比で第 1～第 3 四半期の費用負担が相対的に大きくなっていますが、それらを勘案すると例年通りの進捗です。 なお、事業別では、船舶海洋事業における中国持分法適用会社の業績が想定を上回った一方で、精密機械・ロボットで市況回復遅れ等の影響による下振れがあり、全体としてはほぼ想定線となっています。</p> |
| <p>Q 2 : 精密機械・ロボットにおける 23 年度下期の事業利益計画※が強気に見えますが、計画達成の確度について教えてください。</p> <p>※ 事業利益の実績/計画 上期実績：▲46 億円 下期計画：76 億円</p> | <p>A 2 : 業績は市況の回復状況にもよりますが、引き続き固定費削減等の施策に取り組むことで計画達成の確度を上げてまいります。 なお、足元および下期に想定している事業環境は以下のとおりです。</p> <p><精密機械> 中国建設機械市場の回復時期の見通しには不透明感があり、未だ市況が底打ちした実感はなく、先行きを注視しています。</p> <p><ロボット> 不動産不況による中国経済の低迷が続いていますが、一般産機向けの受注は 2Q を底として持ち直していくとみています。また、半導体市況の本格的な回復は 24 年度を想定しています。</p> |
| <p>Q 3 : PW1100G-JM エンジンに関する 580 億円の損失計上によるキャッシュフローへの影響および当該影響を補う対策を教えてください。</p> | <p>A 3 : キャッシュフローへの影響は、23 年度は限定的ですが、24 年度・25 年度に一定程度あり、それ以降は減少していく見込みです。 来年度以降はボーイング向け売上機数の増加や防衛省向けの採算性向上、中国持分法適用会社の好調継続等による業績の改善が見込まれるため、現時点では特別な資金調達の手続きは必要はないと考えています。</p> |
| <p>Q 4 : 防衛省向け受注高の見通しを教えてください。</p> | <p>A 4 : 23 年度の防衛省向け受注高は約 4,600 億円を計画しています。 (参考) 22 年度 防衛省向け受注高：約 2,600 億円</p> |

2023 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

| 質問 | 回答 |
|--|---|
| <p>Q 5 :</p> <p>パワースポーツ&エンジンにおいて、7~9 月期の業績が 4~6 月期と比較して低調に推移している状況下で、計画では下期業績が上期と比較して増収増益[※]となる理由を教えてください。</p> <p>※ 売上収益/事業利益の実績/計画 上期実績：売上収益 2,671 億円 事業利益 231 億円 下期計画：売上収益 3,229 億円 事業利益 269 億円</p> | <p>A 5 :</p> <p>二輪車・四輪車は、ニューモデルが多く発表される秋ごろから春先にかけて卸売が進むため、一般的に上期よりも下期に売上収益・事業利益が偏重する傾向があります。コロナ禍における需要急伸やサプライチェーンの混乱によって、過去数年は季節性の傾向が失われていましたが、市中在庫が充足するにつれ、通常の事業サイクルを回復しつつあります。</p> <p>足元では、北米の二輪・四輪の販売好調が持続しておりシェアも上昇傾向です。特に四輪需要は底堅く、市場の拡大傾向は継続すると見ているほか、ニューモデル発売による増収効果も計画に織り込んでいます。</p> |